



---

それぞれの機能障害についての細かいこと

## 各論その1

(内部障害系：肢体不自由以外)



# じん臓機能障害

- ◆ 血清クレアチニン濃度で判断が基本
  - ◆ 8.0mg以上 1級
  - ◆ 5.0mg以上、8.0mg未満 3級
  - ◆ 3.0mg以上、5.0mg未満 4級
- ◆ 内因性CCrの基準も適応可 (12歳以上も可)
  - ◆ 10mL/分未満 1級
  - ◆ 10mL/分以上、20mL/分未満 3級
  - ◆ 20mL/分以上、30mL/分未満 4級



# じん臓機能障害

- ◆ eGFR(推定糸球体濾過量)も適応可
    - ◆ 10ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満 3級
    - ◆ 10ml/分/1.73m<sup>2</sup>以上、20ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満 4級
- ※ eGFRに1級の基準はない(最高で3級)
- ◆ Crea、CCr、eGFR のいずれか悪い値で判定
    - ◆ CCrが比較的早期に基準を満たす印象



# じん臓機能障害

- ◆ 「日常生活の制限による分類」は補助的要件
  - ◆ ア 非該当
  - ◆ イ 4級
  - ◆ ウ、臨床症状2個以上 3級
  - ◆ エ、透析が必要 1級
- ◆ 「透析を必要としているから無条件で1級」という認定基準ではない
  - ◆ 血清クレアチニン濃度等の基準も満たす必要がある



# じん臓機能障害

- ◆ 腎臓の機能障害は不可逆的なことが多い  
ためか、「経過・現症」の記載に空欄や乏しい  
記述が目立つ
  - ◆ 記載された検査値が一過性の増悪ではなく、  
永続する機能障害であることを示すのは、  
経過の記載として重要である



# じん臓機能障害

- ◆ 腎移植術後
  - ◆ 術後の抗免疫療法を継続実施している間は無条件で1級